（別紙1）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0790300164		
法人名	医療法人　栄心会		
事業所名	さかえライフハート美術館通り （グループホーム）		
所在地	福島県郡山市字下舘野１１－１		
自己評価作成日	平成25年12月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253　福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成26年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームはクリニックが母体となっている為、医療面においては毎日医師や看護師に報告しており、緊急時に至ってもいつでも相談できる体制が取られている為、ご本人様・ご家族様にとって安心できる環境であると思われます。また、災害時においては同法人が運営する近隣施設の連携・応援態勢が整っていることも強みです。
入居者様の看取り介護の必要性を考え、終末期の生活支援に関する基本的な考え方・対応についてチーム全体で支えられる体制を整えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

1　事業所は医療法人が母体であり市内に多くの介護施設を有しており、医療と介護の連携体制が確立されている。利用者の健康状態の把握や病状の変化にも迅速に対応でき往診もある。近隣の同法人の介護施設及び併設の事業所とは緊急時の応援体制が整っており、利用者及び家族の安心につながっている。
2　管理者を中心に職員間のコミュニケーションが円滑に図られており、職員の明るい笑顔と対応に利用者は穏やかで安心した生活を楽しんでいる。家庭的な温かい雰囲気の事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内には理念を掲示しており、その理念をスタッフ間で共有し実践に努めている。新入社員についても、入社時のオリエンテーションにて理念を伝え意識の共有を図っている。	法人の「運営理念」をもとに事業所独自の理念を作成しており「住み慣れた地域で充実した生活の支援」をうたっている。理念は事業所内に掲示し、月例「ミーティング」等で全職員で確認し、意識を共有して利用者本位のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会には法人が加入している。町内会長や民生員の方々、ボランティアさんの協力を得ながら地域との交流を図っているところではあるが、「地域の一員として日常的に交流している」ところまでは至っていない。	地域の幼稚園との交流やボランティアの受入等を実施している。地域婦人会は事業所の行事にボランティアとしての参加があり常に交流している。地区の文化祭には利用者の作品を出展しており地域との関係構築に努めている。更なる地域との交流に向けて運営推進委員の協力を得ながら推進しているところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や面会に来られた友人・知人から相談があった際はその都度アドバイスしているが、地域の方々に積極的に発信するまでは至っていない。現在まで積み上げてきたノウハウをどのようにして地域の方々に還元していくかは今後の課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業運営内容の報告や、行事等の報告を行っている。その際、委員から頂いたアドバイスを活かしサービス向上に努めている。	運営推進委員は各分野から選任され委員から意見や提言が多くあり、事業所運営やサービスの向上に活かされており、運営推進会議の意義を十分活かした取り組みを行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や、ご家族・ご利用者からの相談について回答をいただく為、月に数回、市介護保険課・長寿福祉課を訪問しており、その際に情報交換を行っている。	開設時から市担当者とは事業所運営や利用者の状況報告、書類提出等の機会を通して常に情報交換をしており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルをもとにした施設内研修を行うと共に、外部研修にも積極的に参加し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。日中は玄関に施錠せずに対応している。	身体拘束の弊害を全職員が理解しており、「身体拘束のないケア」を実践している。「言葉による拘束」についても職員間で注意しながら日々のケアにあたっている。日中玄関の施錠はなく開放センサーや利用者の外出や行動を見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修・外部研修に参加し虐待についての理解を深めると共に、日常業務の中においても虐待につながるような言動が出ていないか等、職員一人ひとりが注意しながらケアにあたっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加する等して制度について学習している。現在、制度を必要とする方はいないが、必要時には活用できるよう、今後も学習・研修等への参加を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護についての知識がない方でも分かるように、契約時の説明については極力分かりやすい言葉で行うようにしており、不安・疑問点についても相手の方が納得されるまで説明する様心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族からの意見、各居室に備え付けた意見・要望用紙や玄関に設置してあるご意見箱を活用して運営に反映させるようにしている。	面会時や行事への参加時及び電話での状況報告の際に家族の意向を把握している。把握した意向等は「職員会議」等で話し合い事業所運営や利用者へのサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや委員会会議・全体会議を定期的に開催し、職員から提案された事案等については優先順位を踏まえて改善を行っている。その他、個人面談を実施して会議等では発言できないような些細な意見でも相談出来るようにしている。	各会議を通して常に全職員で意見交換をしている。さらに「キャリア段位制度」を活用し、職員の自己評価や管理者評価を行っている。「個人面談」も実施しており、職員の意向や要望の把握に努めている。職員の意見は事業所運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し自己評価・管理者評価を行っている。また有休も気軽に取得できている。今後はキャリア段位制度等を活用しやりがいのある職場を目指していきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いての内部研修の開催、個々の能力や希望に応じた外部研修への参加を積極的に行っている。また、外部研修参加職員から、内部研修として勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入しており、研修参加時には他事業所の職員と交流を図ったり、施設を訪問し情報交換を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談依頼後は、ご本人と直接お会いしてサービスの説明をし、要望・不安等をお聞きして、新しい環境となることに対しての不安が軽減できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなく、ご家族の要望・現在困っていること・不安な事を傾聴し、どのようなケアが提供できるか説明を行い、相談・確認しながら信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の現状や要望を踏まえ、今現在必要としている支援を見極め、必要なサービスが提供出来るよう法人内外の事業所間で連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する側・される側」という一方的な関係にならないよう、調理を一緒にしていただいたり、洗濯物たたみ等の役割を持っていただいたり、時にはご本人から教えていただく様な場面を作って関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人の様子をその都度報告している。また、遠方のご家族で定期的な面会が難しい方については、電話連絡等行い予定を確認しながら、ご本人とご家族の交流が図れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や教え子等の面会時には、ゆっくり一緒の時間を過ごしていただけるように配慮している。また、継続して面会に来ていただけるような雰囲気作りを大切にして、関係が途切れないように努めている。	友人・知人・教え子等の面会があり、これまでのなじみの関係が継続できるよう支援している。訪問理容を受け入れており新しい馴染みの関係もできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの状況や状態、ご利用者同士の相性等を把握し、その場面場面に応じた交流が出来るよう、必要に応じて職員が介入し関係の支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要時はいつでも相談可能であることをご家族へ伝えており、柔軟に対応できるような体制をとっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や、ご本人の日常的な行動や言動を観察して、一人ひとりの思いや希望を把握できるように努めている。また、把握が困難な場合は、月に1度のカンファレンスにて本人本位に検討を行っている。	日常のケアの中で散歩・入浴時等での会話や仕草からも利用者の意向把握に努めている。意思表示が困難な利用者の場合は家族から意向を把握している。全職員が日常的に利用者と数多く会話をして、利用者の思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時のアセスメントを基に情報を共有してケアにあたっている。また、入居後も日常のご本人との会話の中からエピソード等を伺ったり、面会に来られた方等からも話しをお聞きしてケアに活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録だけではなく、カンファレンス・申し送り等を通じて入居者の現状を把握し、その都度看護師や介護職と相談しながら個人の心身状態に合った支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要関係者の意見を取り入れ、定期的にカンファレンスを行っている。全員が出席出来ない場合には事前に意見を出してもらい、全員で検討できるようにして現状に即した計画を作成している。	担当職員を決めており日常の状態を詳細に把握して利用者の状態に即した介護計画となっている。また、日々の個別記録をもとに定期的に関係者で話し合い介護計画を見直している。利用者の状態に変化があった場合には、随時介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画の見直しは定期的に行っている。入居者の状態に変化が見られた時には職員全員が把握に努め、話し合いのもとケアプランの変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のニーズに対応できるように、意見や要望等を把握し、他業種との連携が図れるように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括センター・民生員・町内会長に参加していただいており、グループホームの理解と協力が得られるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族供に、ほとんどが当法人のクリニックの往診を希望されている為、月2回の往診を受けている。また、他科受診が必要な際は、ご家族と連携しながら送迎・付添い等の対応を行っている。	現在、利用者全員が法人の医療機関をかかりつけ医としている。専門医の受診には家族対応を基本としているが、状況によっては職員が同行する場合もある。協力医療機関からの往診もあり、受診結果は互いに報告しあい情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で入居者の状態に変化を感じた際は、すぐに看護師に報告し指示のもと対応している。また、ほぼ毎日看護師からクリニックへの報告を行っており、受診等が必要になった際はすぐに対応できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の病状や日常生活の様子等、医療機関へ必要な情報提供を行っている。入院中も、相談員や病棟看護師と随時情報をやり取りしながら、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」や「終末期の生活支援に関する基本的な考え方」等を明記し、それを基にチーム全体で支援する体制を整えている。また、状態変化時には、医師と家族と直接話しが出来る機会を設け、終末期に向けた今後の対応・方針について説明を行っている。	事業所として「看取りに関する指針」「終末期の生活支援に関する基本的な考え方」「見取りの実施施行に向けた対応」等詳細な指針を策定しており、利用者の状態に変化があった場合には医師や家族と十分話し合い、家族の希望にそって柔軟に対応しており、ターミナルケアについても全職員で意識を共有して実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを職員へ配布し、事務所・スタッフルームへ掲示をしている。また、外部研修への参加や内部研修を実施し応急手当や初期対応の知識を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年より回数を増やし、2ヶ月に1回は避難訓練を行っている。いざという時に被害を最小限に抑えられるよう、今後はさらに回数を増やせるようにしていきたい。地域との協力体制の確立については検討課題である。	消防署立会いの防災訓練を含めて年6回の訓練（避難訓練・通報訓練・伝達訓練等）を併設する事業所と合同で実施している。訓練後は全職員が「訓練の反省点、改善点等」を提出し、課題等を話し合い次回の訓練に活かしている。非常時の食料品・衛生品等は備蓄している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格を大切にして声掛けの仕方や言葉使いに注意している。また、入浴・排泄の介助等においてもプライバシーに配慮してケアにあたっている。	全職員が利用者の人権を尊重し、トイレや入浴への誘導等言葉かけには十分注意して対応している。研修会を通してプライバシーを損ねない対応に努めている。個人情報の保護についても徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が何でも口に出して言えるような雰囲気作りを心がけながら、自己決定できるように声掛け等も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかな流れはあるが、ご本人の希望や生活習慣等を尊重しながらご本人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や着替え等の際は、ご本人が着たい洋服を選んでいただき、おしゃれを楽しめるように支援している。また、月1回の訪問理容の際はご本人やご家族の希望にそってカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事やおやつの際は、野菜の皮むきや食器洗い等、ご利用者のできる範囲で手伝っていただいている。また、食事の際は、職員も同じテーブルで食べ会話をしながら楽しく食べれるような雰囲気作りを行っている。	利用者と職員は同じ食卓を囲み会話をしながら共に食事をとり、楽しいひとときを共有している。食材は業者から納入されている。行事食（母の日、父の日、海鮮丼の日、ひな祭り、敬老会、誕生会等）も数多く企画し実践している。さらに外食も多く実施し、食事が楽しいものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は、食材配達サービスを利用して栄養バランスの取れた物を提供しており、カロリー計算もされている。食事形態もご利用者の状態の変化に合わせてその都度変更しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けや介助を実施し、口腔内の状態確認等も合わせて行っている。また、必要に応じ訪問歯科の往診を依頼して状態維持できるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握を心がけており、出来る限りトイレで排泄できるように支援している。	トイレでの排泄を基本に支援しており、利用者個々の「排泄チェック表」を活用し誘導している。リハビリパンツやオムツの使用も利用者一人ひとりにあった支援をしており、改善された利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために水分摂取量の把握を行い、体操や運動も行っている。また、ヨーグルトや牛乳も毎日提供してなるべく薬に頼らないようにしているが、排便困難者には下剤を使用し、看護師による排便コントロールを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	脱衣所に入浴の実績表を貼り、入居者の体調や希望に合わせて入浴を実施している。入浴を楽しんでいただく為、季節感のあるゆず湯や菖蒲湯等もおこなっている。	利用者の希望により入浴できる体制となっている。入浴拒否者には担当者・話題・時刻等を変え利用者の気分転換を図りながら誘導している。利用者の状態によって併設する小規模事業所のリフト浴を利用している。外出をかねての足湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて休憩していただいたり、就寝時間のリズムを崩さないように支援している。眠れない時には温かい飲み物を提供したり、会話をしたりしながら安心して休んでいただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルを準備し、処方内容や臨時の頓服薬等の把握に努めている。処方の変更や追加があった際は、看護師からの申し送りが徹底されており、職員へ周知できるよう連絡ノートにも記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握し、現在の能力で出来る範囲での役割（洗濯物たたみ・掃除・調理等）を持っていただけるよう支援している。また、行事・外出等、入居者に楽しんでいただけるような企画も日々考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食、ドライブや散歩等、気分転換が図れる機会を提供している。ご家族の申し出による外出・外泊はあるものの、外出については地域の方々の協力は得られていない為、今後の課題となっている。	好天時には近隣の散歩や近くの商店での買い物などを楽しんでいる。事業所では外出の機会（お花見、こいのぼり見学・芝桜・紅葉狩り、外食、足湯等）を多く企画し実践している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者自身でお金を管理している方は、現在1名のみ。その方が買い物を希望される際は、スタッフが同行しご本人の買いたい物を自由に購入していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話することができる事を伝えており、電話使用の訴えがあった際には、随時、家族や知人への取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、その月や季節に合った壁画や習字、市や地区の作品展に出展した作品等を掲示している。また季節の花を飾る等、季節感を感じていただけるな工夫も行っている。	事業所は平屋であり、非常口は広く災害時の避難には有効である。共用空間は食堂エリアのほか、ソファーコーナー等があり利用者が自由に寛げるよう配慮されている。空調も適切に配慮されており、壁には利用者の作品等が飾られ落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方が多い為ソファーの数を増やした。自由にイスやソファーに席を移られたり、気の合う入居者同士会話を楽しんだりテレビを見たりと思い思いに過ごしていただけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている （小規模多機能の場合）宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各居室にはご家族の協力を得て、ソファーやタンス・机等を持ってきていただきご本人や家族の希望に合わせて配置している。使い慣れた家具は少ないが、ご家族との思い出の写真等を持参され居室内に飾る等して居心地の良い空間作りを心がけている。	居室はベット・エアコン・換気扇が標準整備されている。利用者はテーブル・イス・整理箪笥等を自由に持ち込み居心地の良い環境を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が自分で出来るよう、動きやすさにあわせて手すりやポータブルトイレ等を設置している。また、転倒の危険がある方については動線等を考慮しながら家具等の配置を行っている。		